

平成20年度事業方針

オーナー 桜を中心とした

維持管理事業

会員相互の親睦を深める

事業の愛護、保全、育成

機の愛護・保存・育成に関する知識・技術の習得

「これは発足当初からの方針をそのまま引き継いでいます。」

年間活動予定

定例会は、奇数月の第2日曜日9時からを原則とします。深坂自然の森の「森の家」に集会します。雨天決行です。今年度の予定は左表の通りです。来年5月が第2日曜ではないので気をつけてください。

平成21年			平成20年		
5月17日	3月8日	1月11日	11月9日	9月14日	7月13日
第6回定例会	第5回定例会	第4回定例会	第3回定例会	第2回定例会	第3回さくら友の会総会 第1回定例会

真夏の森の夢

「くら友の会に入ろうと思つたか?また、これから深坂の森にかける夢などを語つてもらつた。出席は阿部、富崎、坂井、平野、城戸、西川、野口。」
A「わたしは結婚記念に植えました。だから、これを枯らしちゃいかんと、手入れしていくました。ツツジの植え込みの中に植えてあつたので、周りのツツジを短く刈りました。」
K「君だつたの。こつちは市から怒られましたよ。」(笑い)
A「その後、Kさんから電話で、友の会に入つて桜の世話をしないかと勧誘を受けました。」(笑い)
S「わたしは家族が6人で、6本植えようと思つているがまだ5本です。運動神経は鈍いが、草取りなんかは好きなんですよ。それで友の会に入りました。」
H「私は高校時代から深坂の

定例会の日は、各自で手袋
鎌、移植ゴテ、剪定バサミなど
手道具はお持ちください。9時
から作業内容の説明および部会
報告などのあと作業に移つて頂
き、午前中で作業終了です。作
業後はほとんど毎回、オニギリ
や、ブタ汁などの昼食が無料で
準備されています。

た。
N 「春は桜、秋は紅葉と言つ
わけには行かないのですね。」
H 「杉林の中に植えられた桜
を見ると可哀想に思う。山桜を
植えたい。」
N 「わたしは、自分達のほか
孫やお爺ちゃん、お婆ちゃんの
ために植えた。友の会に入つた
のは、実は深坂の森を丸裸にし
て桜ばかり植えられるのを恐わ
たからです。これは中に入つて
ブレーキをかけなければならな
いのではないかと思つた。」
H 「そういうことだけは停め
ねばならない。」(笑い)
N 「日本の森林資源は、北欧
辺りに比べると、あまり活用され
ていないう�に思う。イギリ
スにあるナショナルトラストを
参考に、市民から寄付を集め、
ボランティアを募つて、もつと
森の価値を高める方法があるの
ではないか。人工的な遊戯施設

森には縁があつた。まだ堤がない時代だつた。深坂の森は山桜が奇麗。山桜が好きで桜を植えた。草がよく茂るので、手入れのために刈払い機を買った。そこに友の会の話しがあつたので、やつとそういう話しになつたかと思つて入つた。

石とつなぎの泥で、失敗してやつてみたい。」
「石窯ならパンも焼ける。」
「桜の季節外に何度も深坂に出入りする間に、スミレの群生や、筆リンドウの群生に出て、深坂がますます好きになつた。桜のオーナでなくともこの会に入れることをもつとPして、みんなで深坂の森を良くしていけたらいいですね。」
「そういう群生は、雑草を良い時期に刈つたから出来る。だから地図を作つて、ここは時刈る、それ以外は刈つてはいけない」という計画が必要だ。」
「そう。そういう計画を自分で作るのでなく、市にも説明し、多くの人が参加して愛すべき森にしていくことが出来たらいい。」（編集野口）

でなく、森は森らしく大木を育てたり、外来種の山野草は除去するとか。」
K「これから深坂の森をどうしたいと思いますか。」
H「炭焼きなんていいんじゃないですか。」
H「炭焼き窯を作るのは大変

めて惜しむ・想い込め己が
桜に逢えるのは春の盛りのさ
くらえのころ・さわさわと人
恋しさに山桜・さくら坂笑い
声聴く小鳥たち・峰づたい射
撃音ひびく見晴台・深坂桜十
年後日本一・深坂の森人の
集いて桜(はな)盛り・ウオ
ーク前準備体操足つた・今
日の日はひとよしそらよしさ
くらよし。

以上四十七句(一十三名)
の応募があった。「桜咲く人
の心にときめきを」(吉田ま
ゆみ)が本日の最優秀作品に
選ばれた。紙面の都合で他の
作者名は省略した。そのうち
に句碑を作ろうかと言う声も
あがつている。自分の桜に添
えるなら良いが、句碑を作る
となると、友の会だけの問題
ではない。現代俳句は分かり
難く意見も分かれそうだ。市
民が納得する選者を要する。

（一頁からの続き）は
な風や急ぎ手をやる帽子とぶ・記念にと植え
た桜見孫たちと・さく
らえの深坂の森へ記念
樹を・桜咲く深坂の森
に思い出を・さくらみち小鳥
とあそぶ深坂みち・さそわれ
る小鳥の声とさくらみち・天

桜四方山